

3. 航空科学技術分野の研究開発の必要性及び意義

航空機産業は、関連する技術分野の裾野が非常に広く、他の産業に比べて性能や信頼性に対する要求水準が高いため、その時々において、常に先進的で付加価値の高い技術が適用されるという性格を持っている。そのため、航空機産業は、広範な産業分野の高度化を先導するとともに、国の安全保障を担う重要な産業であることから、世界的にみても、各国とも国としての重要な戦略的分野として位置付けられており、その振興が図られている。

特に近年、アジア諸国やカナダ、ブラジルなどでも、旅客機の開発など産業育成の取り組みを強化し、航空機産業の急速な成長につながる成果を遂げている。

一方、我が国の航空機産業の現状は、欧米先進国との相対的な実力差が拡大しつつあり、また航空機産業の振興を目指すアジア諸国からの追い上げを受けるに至っている。このような現状を打破するためには、従来以上に明確に実用化を視野に入れ、我が国全体として産官学の力を結集して航空科学技術の研究開発を推進し、航空機の開発技術、特に高度なシステム化技術の飛躍を図り、我が国の産業発展の先導的役割を果たしうよう航空機産業全体の活性化とその発展を促進する必要がある。

また、我が国の航空輸送量の規模は世界でも有数であり、航空輸送は最も重要な交通機関の一つとなっている。航空機の運航に係る安全性の追求は常に求められているが、米国での同時多発テロを契機として、ハイジャック防止対策等の保安（セキュリティ）に係る技術開発の要請も発生している。さらに、地球環境との調和及び生活の快適性の追及の見地から、騒音や排気ガス等の低減など環境保全に関する技術開発を促進することが世界の潮流となっている。我が国としても積極的にこれらを含めた社会的要請に取り組み、我が国の航空輸送の発展に資する基盤技術を強化する必要がある。